静岡新聞で学ぼう

Newspaper in Education

静岡新聞

トピックス

◆南極海にプラ粒子浮遊

生態系への悪影響が懸念される微細なプラスチック（マイクロプラスチック）が南極海にも浮遊していることが、九州大や東京海洋大の調査で分かった。

南極海の調査で見つかった約2ミリのマイクロプラスチックの拡大写真（九州大提供）

マイクロプラスチックは人口が多い世界の沿岸部で多く見つかっているが、南極海での検出報告は初めてとみられる。九州大の磯辺篤彦教授（海洋物理学）は「人間の生活圏から最も遠い南極海で見つかった。地球上のどこにでも存在すると考えられる」として調査の拡大を訴えている。

マイクロプラスチックは、ごみとして海に流れた包装容器などが、紫外線や波によって5ミリ以下の粒子になったもの。環境中の有害物質を吸着しやすく、のみ込んだ魚や鳥への影響が懸念される。

調査は1～2月、オーストラリアと南極大陸の間の5カ所で実施。目の細かい網を引いて海面近くの浮遊物を採取すると、南極に近い2カ所では海水1トン当たり0.05～0.1個と特に多くの粒子が見つかった。1平方キロに約14万～29万個ある計算で、北半球の海で平均的な約10万個に匹敵する数となった。ただ南極海の全体状況を推定するにはデータが足りず、粒子がどこから出たかも分からないという。

結果は海洋汚染の専門誌マリン・ポリューション・ブレティンに発表した。

2016年10月17日　朝刊

①マイクロプラスチックは、主にどこで見つかりますか。

［　　］

②マイクロプラスチックは、どのようにしてできますか。

［　　］

③マイクロプラスチックが多くなると、どんなことが困りますか。

［　　］

年　　組　　名前

（小学校高学年・中学校・高校　理科・総合）